

和田地区文化祭を お手伝いします



南房総市文化協会各支部では、十月から十一月にかけて文化祭を開催します。その中で、和田町文化協会は、十一月十四日(日)に行う予定です。文化祭も、市の公民館システムが変わったことに伴い、文化協会支部がその準備・運営を全面的に負うようになっていきます。

『WAO!』生きがい部会では、「サークルボランティア活動」を『寺子屋講座』のテーマとして取り上げているように、地域住民の生きがいづくりの大切な要素として捉えています。

昨年度、文化祭を初めて自力運営した地区文化協会の様子をお聞きした際、私たち地域づくり協議会も何かお手伝いできないかと考えました。

そこで、先日行われた準備会に参加し、お手伝いできることがないかどうか、提案させて頂きました。そして、本年度はよりあきま前日準備と当日の後片付けをお手伝いさせて頂くことになりました。

本年度は、今まで使用していた和田公民館や旧支所庁舎が取り壊されたため、『ミニミニセンター』一ヶ所での開催となります。少し手狭な環境で、融通しあつての展示や発表となりますが、来年度に向け更に関わりを深めながら、文化祭を一層楽しく多様なものにしていく工夫していきたいと思います。



次のような活動とも 連携していきます

下のグラフは、地域づくり協議会が過日行った「地域の安心・安全アンケート」の抜粋です。内容は、地区毎に区分した「お年寄りに対する通院や外出支援の必要性」についてです。

他の地域に比べて、上三原地域の反応が圧倒的に大きいことが分かります。このことについて、地域づくり協議会の安心部会でも、具体的な活動に結びつけていかなければならないと声が上がります。何回かの話し合いが持たれています。

市による『地域課題』の見える化事業

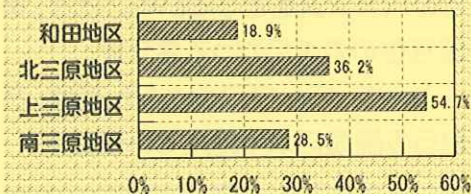
市では、新しい地域づくり事業の一環として、市内の17地域の「地域源資や課題」を洗い出し、地図に落とし込み、それらが一望できるようにして頂くと考えています。

その先行実験地域として、和田と白浜が選ばれました。そのうち、和田では「日常生活対策、特に買い物支援」に課題を絞って、調査や地図への落とし込み等が行われる予定です。これに対し、和田地域づくり協議会『WAO!』も、積極的に協力していきます。

調査は、主に千葉工業大学の鎌田ゼミが行うこととなりますが、事前の情報提供や現場調査の際の支援を、地域づくり支援員が行います。また、その調査結果を元に解決(改善)のための話し合い(主にワークショップ)が持たれることとなります。そこで、『WAO!』の会員も参加して頂くことになると考えます。

市の考える新しい地域づくりの「エンジン」として、『WAO!』は、このような活動に積極的に協力・連携していきます。

通院や外出の支援をすることに対する反応
— 領域(お年寄りの安心・安全)の中で —



『地域福祉フォーラム』 って何でしょう?

って何でしょう?

現在、和田地域では和田、北三原、上三原、南三原地区で、それぞれ「地域福祉フォーラム」という組織が立ち上がっています。

『地域福祉フォーラム』というのは、県が提案する「千葉県地域福祉支援計画」に基づき、(財)千葉県地域ぐるみ福祉基金が支援し、地域の福祉活動団体に呼びかける、「身近な課題に対する『地域住民一人一人が主役』となつた『新しい地域社会づくり』を指す活動」です。

- 1 地域における課題や住民ニーズの明確化
- 2 地域課題の解決や住民ニーズの充足に向けた

方策の検討
更に、考えられる取り組み例として、
☆地域住民の自助・共助ネットワークの構築



- ☆地域での子育て支援
 - ☆商店街の活性化(地域通貨の発行等)
 - ☆福祉教育の推進
 - ☆制度内・制度外サービス事業の立ち上げ支援
- などが挙げられています。

これらの内容や活動を見ると、現在、『和田地域づくり協議会』WAO!』が取り組んでいる内容と非常に近接しています。

このページの写真は、七月二十一日(土)やすらぎで行われた、町内4福祉フォーラム合同研修会の様子です。

この会には、既に取り組みを行っている鴨川市江見地域の福祉フォーラムの方々が講師として依頼され、活動の様子を話されました。

それと並行して、和田の小域フォーラムも地区毎に会議や学習会を持っています。

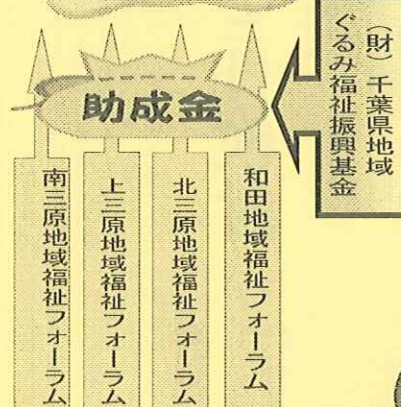
「地域づくり協議会」のメンバーも、何回かの会議に参加すると共に、『地域福祉フォーラム』の活動とどう連携しているか、検討しているところです。

個々の組織が単独で行う地域づくり活動より連携して行う活動の効果は何倍かになること、間違いありません。『WAO!』では、社会福祉協議会等と情報交換をしながら、更に連携のあり方を模索していきます。



4 地区合同研修の様子

千葉県 地域福祉支援計画



4 地区合同研修の様子

発行者 南房総市・和田地域づくり協議会『WAO!』
連絡先 南房総市役所和田支所内
地域づくり支援員 田島和幸 白井砂千代
電話 支援員 0470-47-5955
支所 0470-47-3111
FAX 支所 0470-47-4181

和田町での取り組みが現在に生きています

平成12年に、白渚海岸でこのような取り組みがありました

平成16年 千葉県作成パンフレット

住民参加による海岸作り

抜粋

「白渚海岸を語る会」の開催

白渚海岸の海岸整備では、“地域の特性を活かした地域とともに歩む海岸づくり”を目指して、安全で調和のとれた保全対策を推進するために、地域住民の意見を反映し、利用環境にも配慮した海岸保全計画作りを行う場として「白渚海岸を語る会」を組織しています。

この「白渚海岸を語る会」は、海岸整備にとどまらず「地域住民による地域づくり・街づくり」のきっかけ・場づくりになるものと期待されています。

期 日	協 議 の 内 容	参加人数
第1回 平成12年 8月24日 (和田町コミセン)	・現地見学会 ・「語る会」の趣旨説明 ・海岸の現状についての説明 ・質疑応答 ・フリーディスカッション	56名
第2回 平成12年10月28日 (和田町役場)	・白渚海岸の現状と問題点について ・会の進め方、計画の見直しについて ・質疑応答 ・フリーディスカッション	58名
第3回 平成13年 3月10日 (和田町コミセン)	・越波対策の必要性と広報の外洋について ・保全計画(案)の提示1次対策についての承認と全体計画の方向性の確認 ・質疑応答 ・フリーディスカッション	57名
第4回 平成14年 8月31日 (和田町コミセン)	・磯場環境、海浜利用の実態報告 ・2次対策の詳細検討結果と2次対策(案)の提示 ・質疑応答 ・フリーディスカッション	57名
第5回 平成14年11月15日	・2次対策の具体案の説明 ・質疑応答 ・フリーディスカッション	50名
第6回 平成14年12月 3日 (白渚海岸)	・現地説明会 ・2次対策の実物大模型を使用した説明 ・質疑応答 ・フリーディスカッション	20名

鴨川で国際会議開催へ

環境保護に取り組むサーファーら

10月10日に公開シンポジウム

サーフブレイクやボディーボードの視点から海の「環境保護」に取り組む団体「サーフブレイク・ボディーボード・サーフ・プロジェクト」が、約30人のサーファー、公開シンポジウムを企画し、10月10日に公開シンポジウムを開催する。

このシンポジウムは、環境保護と新しい「海浜」の活用をテーマとし、東京・守山倫明代志が「海岸利用の現状」をテーマとして、8日から4日間の日程で、鴨川で国際会議を開催する。

このシンポジウムは、環境保護と新しい「海浜」の活用をテーマとし、東京・守山倫明代志が「海岸利用の現状」をテーマとして、8日から4日間の日程で、鴨川で国際会議を開催する。

サーフィンプロジェクトでは、白渚海岸の取り組みについて学習会を持ちました

「白渚海岸を語る会」の組織づくりと話し合いが、千葉県で初めての住民参加型の海岸保全の取り組みとなったとのこと。

そして、その組織づくりや話し合いの経過が、後の千葉県の「海岸保全計画づくり」の根拠となっていることが分かりました。

海岸保全には、住民の被災防止が大きな比重を占めています。

それを大切にしながらも、環境保全や生産活動、そして経済活動などとのバランスをとっていくことが、地域活性のカギになってきます。

サーフィンプロジェクトでは、これらの課題に取り組んでいきます。



学習会後の話し合いで

サーフィンプロジェクトの活動の方向性は

1. 和田地域の海岸線を、災害防止とのバランスを考慮しながら、環境(観光)資源として大切にしていこう(良い波があるから人が来る。その波を消して欲しくない。)
2. サーファーと地域住民とのコミュニケーションづくりを進めるために、サーフィンプロジェクトが中間支援的活動をしていこう(おもてなしと経済活動の共存)
3. 地域住民や子どもたちを巻き込む活動をする中で、将来のサーフィン人口を増やしていこう



県へ働きかけ



和田の海 岸 人工浅瀬に、高波、

サーファー「波崩れる」 漁業者「海藻漁場残して」



県、工法を再検討

千葉県建設部は、和田町の白渚海岸で、人工浅瀬の設置工事が完了した。しかし、高波による波崩れが頻発し、サーファーや漁業者から苦情が寄せられている。県は、現在の工法を再検討し、より安全で効果的な対策を検討している。

「高波による波崩れが頻発し、サーファーや漁業者から苦情が寄せられている。県は、現在の工法を再検討し、より安全で効果的な対策を検討している。」

千葉読賣

2000年(平成12年)3月16日(木曜日)

住民

人工浅瀬の設置
直立堤防の設置

になると

- ＊ 磯根がこわれ、魚介類がとれなくなる
- ＊ 海岸の景観が失われる
- ＊ 海岸への接近が困難になる
- ＊ 波の形が変わり、サーフィンができなくなる

サーフライダー・ファウンデーションへ相談

サーフライダー・ファウンデーション(Surfrider Foundation)は、サーファーやボディボーダーの視点から海辺の環境保護活動を行なっている団体です。具体的には、水質調査、環境教育、海岸調査などに取り組んでいます。